

## (10)九州



九州地域では、景気は弱い動きとなっている。

- ・ 鉱工業生産は減少している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあり、持ち直しに足踏みがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(↑は上方に変更、↓は下方に変更)。

### 前回調査からの主要変更点

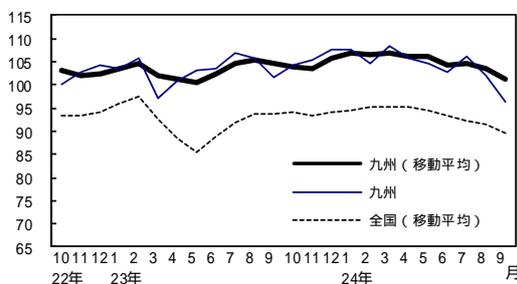
	前回(平成24年8月)	今回(平成24年11月)	
景況判断	緩やかに持ち直し	弱い動き	
鉱工業生産	弱含み	減少	
個人消費	持ち直し	おおむね横ばい	
住宅建設	増加	大幅に増加	
雇用情勢	持ち直し	持ち直しに足踏み	

## 1. 生産及び企業動向

### (1) 鉱工業生産は減少している。

電子部品・デバイスは、民生機器用途のモス型計数回路等を中心に減少した。輸送機械は、エコカー補助金終了の反動を受けつつも、新車効果の影響等もあり増加した。一般機械は、スマートフォン向けの半導体製造装置の生産が低迷していること等から減少した。化学は、海外景気の悪化により受注が伸び悩んでいること等から減少した。

鉱工業生産指数



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
電子部品・デバイス	15.6	3.9	6.2	4.4	22.0
輸送機械	15.4	1.4	0.6	0.1	16.7
食料品・たばこ	10.6	0.6	5.2	4.1	0.0
一般機械	10.6	8.9	11.4	8.3	10.5
化学	8.2	1.2	0.1	4.9	3.9
鉱工業	100.0	2.4	2.9	1.6	0.3

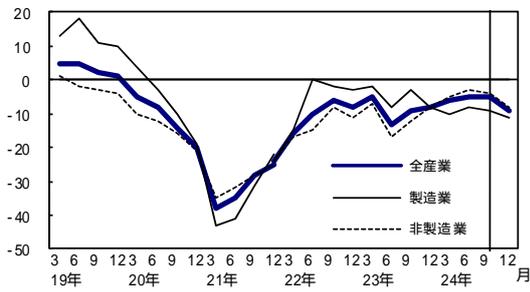
(備考) 1. 1.17年=100、季節調整値。九州の最新月は速報値。  
2. 全国及び九州の太線は後方3か月移動平均。

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。  
2. 7~9月期は速報値。

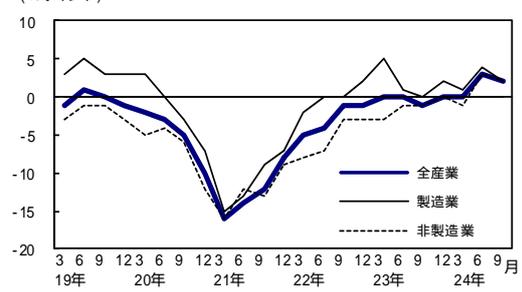
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



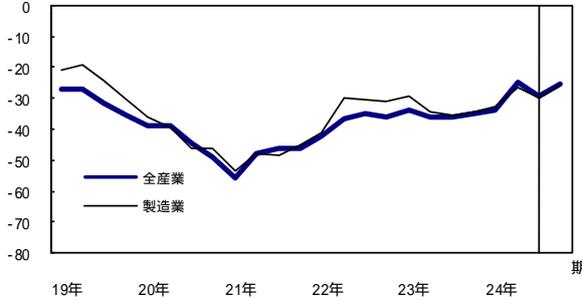
(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。24年12月は予測。  
21年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
21年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。24年 期は見通し。  
九州(含む沖縄)地区のDI。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

「中国不安のために中国へ進出した工場が戻ってくると思っていたが、他のアジアの国への進出が進んでおり、空洞化のほうに傾向は強い(繊維工業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

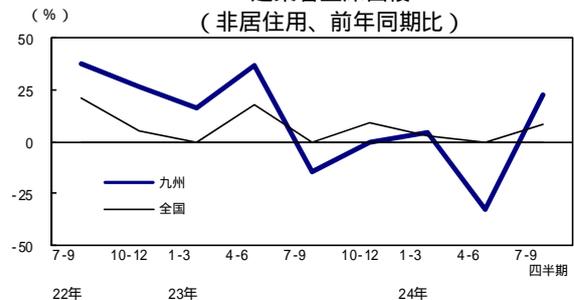
(3) 24年度の設備投資は、前年度を上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	23年度実績	24年度計画
全産業	19.5	8.9 (2.5)
製造業	17.5	16.4 (5.2)
非製造業	20.4	5.3 (1.1)

(備考) 1.( )は前回(6月)調査比修正率。  
2.リース会計対応ベース。

建築着工床面積 (非居住用、前年同期比)



## 2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

### 大型小売店販売額

大型小売店販売額は、前年同期比で2.1%減、前期比で0.2%増となった。

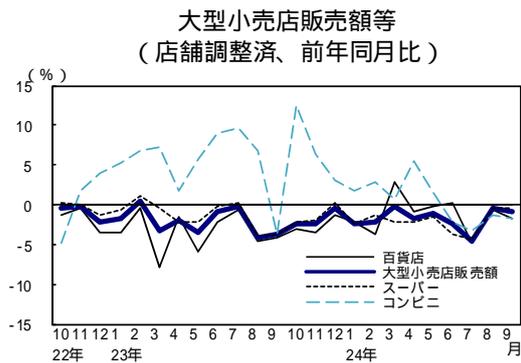
百貨店は、7月は、天候不順などにより主力の衣料品が低調だったこと等から、前年を下回った。8月は、月後半の残暑が厳しく秋物衣料が低調だったこと等から、前年を下回った。

9月は、月前半の残暑の影響により、秋物衣料が低調だったこと等から、前年を下回った。

スーパーは、天候不順や残暑の影響等により衣料品が鈍かったこと等から、前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

「3か月前の夏物セール時期に比べると、今月は秋物の実需期になる。ファッション業界は気候にかなり左右される。ようやく今週から寒くなってきたので、重衣料が動き始めた。前半は物の動きが鈍く、単価も低く売上が伸びなかったが、後半ようやく前年並みになってきた(衣料品専門店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	23年10-12月	24年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店(*1)	1.6	1.6	1.7	2.1
百貨店(*1)	2.5	0.9	0.2	2.7
スーパー(*1)	1.2	1.9	2.5	1.8
大型小売店(*2)	0.8	0.6	1.1	1.3
(季節調整値)(*3)	( 0.3)	( 1.0)	(0.1)	(0.2)
乗用車(*4)	22.3	46.5	75.6	18.9
(季節調整値)(*4)	(5.9)	(17.9)	(9.9)	(12.5)

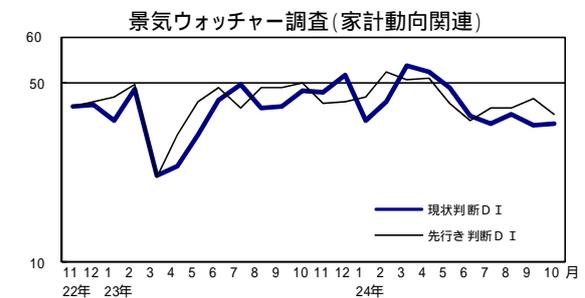
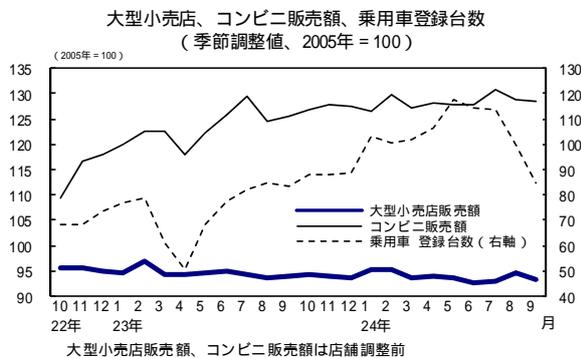
(備考) 1.九州・沖縄地区、店舗調整済、前年同期比(%)

2.九州・沖縄地区、店舗調整前、前年同期比(%)

3.九州・沖縄地区、店舗調整前、前期比(%)

4.乗用車は乗用車新規登録・届出台数。

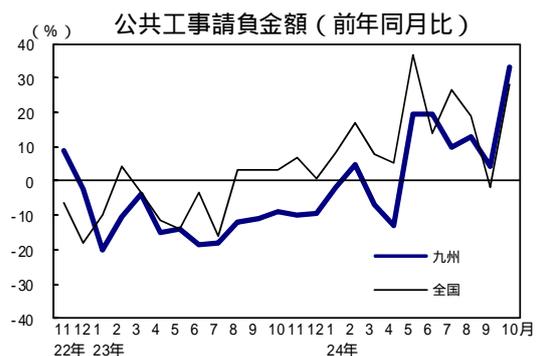
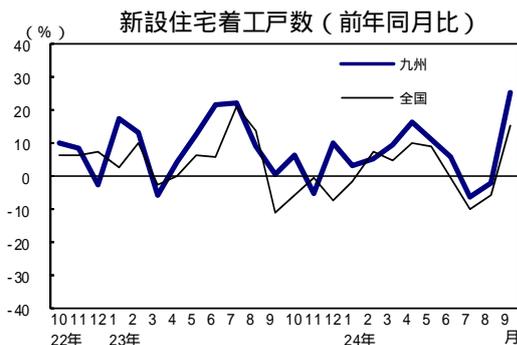
(上段：前年同期比、下段：前期比)



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

持家、分譲が前年を下回ったものの、貸家が前年を上回ったことから、全体では大幅に増加している。

(3) 公共投資は24年度累計で見ると前年度を上回っている。

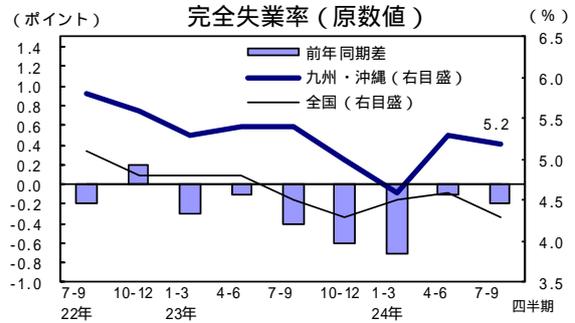
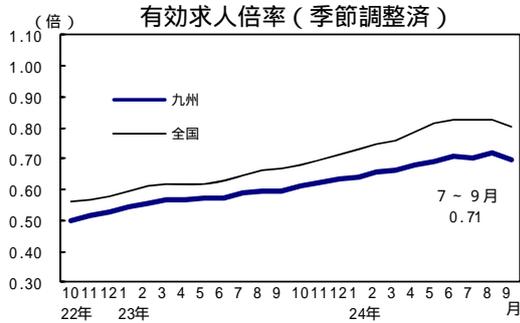


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況にあり、持ち直しに足踏みがみられる。

有効求人倍率及び完全失業率等

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (10月) [雇用関連 (現状)]

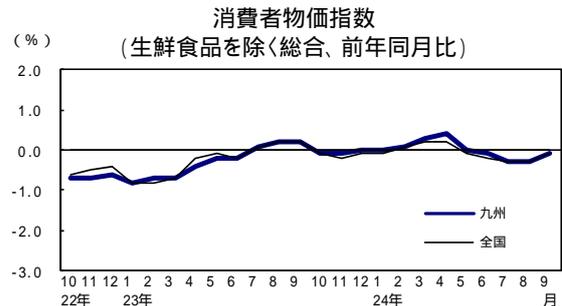
「新規求職者は、前年同月比7.9%減少しているが、新規求人数も同4.0%減少している。また、管内企業からも景気が上向いているという声は聞こえてこない(職業安定所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は減少に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	23年10-12月	24年1-3月	4-6月	7-9月	24年10月
倒産件数	209	213	198	197	96
(前年比)	10.6	14.5	1.5	10.5	41.2
負債総額	267	354	554	398	229
(前年比)	44.4	10.0	37.5	3.1	141.1



景気ウォッチャー調査 (10月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・機械設備製作や部品加工の単価が下がり、受注量が減っているため、仕事の確保が難しい状況である(一般機械器具製造業)

<先行き>

・宿泊に関しては、尖閣問題が発生してからインバウンド、特に中国の予約がパタリと止まった。韓国の観光客も少なくなっている(観光型ホテル)

